

2023年5月24日

第19回安全工学会総会  
会長挨拶

武藤 潤

皆さんこんにちは。会長の武藤でございます。今日は、第19回安全工学会総会に、対面及びオンラインでお集まりいただき、ありがとうございます。

私たちは、コロナと共存して3年ほど経過しました。ゴールデンウィーク明けには、感染症の区分が2類から5類に変更され、だいぶ落ち着いて、社会も活気を取り戻してきていると感じております。

行動パターンも以前に戻りつつあると感じておりますが、一方で、以前に戻るといよりも、まさに新しいフェーズに入っていくという感覚もございます。

今日はこうしてハイブリッドで会議を行なっておりますが、仮にコロナ感染症が収束しても、社会に普及したハイブリッドやオンライン会議がなくなるのかということ、そうではありません。コロナ期間中に学んだハイブリッドの利便性、ハイブリッドならではの利便性もありますので、以前に戻るといよりも、新しい形で活動していくということになろうかと思っております。

この3年を通じて、変化の速度が非常に早いということ、予見できない変化が矢継ぎ早に起こっていると感じています。これは地政学上の話もあれば、サプライチェーンの安全保障の問題をはじめ、非常に多岐にわたっております。私たちの安全工学の分野でも全く同じで、変化が激しい故に、予見できないリスクも出てくることになり得ます。先ほどの基調講演でVRの話がございましたが、VRと最近、進化が目覚ましいAIをリンクさせて、仮想現実の中で、起こり得るシナリオを踏まえて、現実社会での対応を考えて行く様な時代になると考えています。

私たち安全工学会は、まず、経験や教訓から学び、経験や教訓を活かして再発防止を確実に行うことが大事だと思っております。そして、未然防止です。変化の速度が早いという話を先ほどいたしました。が、トラブルや事件事故を経験しないと教訓を活かせないのではなく、潜在的なリスクを予見して、それに対応して未然に事故を防ぐ事を社会から求められています。すなわち、再発防止と未然防止に尽きると思っております。

個人会員の方、法人維持会員、そして法人賛助会員の方々、600人を超えるそれぞれのニーズや期待があるかと思いますが、やはり産業および社会の安全・安心の向上を高めていくのが、本会の役割と思っておりますので、それに向けて邁進したいと考えております。

後ほど、2022年度の活動について報告がございます。私どもも、コロナ禍の社会で、より効果的に活動するために、いくつか新しい取り組みを行っております。例えば、理事会のもとに運営会議を設けました。今までのように5つの常置委員会がそれぞれ活動する事に加え、5つの常置委員会の活動に横串を通し、安全工学会全体の視点で、今日的な話題と将来の話題、双方とも議題に上げて、横の連携をしながら活動するという事です。もう一つは、国際交流ワーキンググループと広報ワーキンググループを理事会のもとに立ち上げて、力を入れて行きます。個人法人を問わず、会員の皆さまのニーズに応えながら社会に貢献していきたいと考えております。

後ほど、2022年の結果と2023年の活動方針についてご説明申し上げますので、ぜひ皆さんから忌憚のないご意見をいただき、活発な総会になることを願って、私の挨拶といたします。今日はよろしくお願いたします。